

# ネイパルに泊まろう 1

## 1, 趣 旨

ネイパルに宿泊し、野外活動や創作活動など、体験活動をとおり、異年齢の交流を図る。

## 2, 期 日

平成26年12月13日(土)～14日(日) 1泊2日

## 3, 主 催・実施場所

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

## 4, 参加対象

小学校4年生～6年生 50人

## 5, 参加実績

□参加者 64名(以下内訳)

2年生	12
3年生	12
4年生	18
5年生	8
6年生	10
中学1年	1
中学2年	3
合 計	64

女子	46
男子	18
合 計	64



□ボランティア 11名(以下内訳)

教育大学 7名  
 高校生 1名  
 一 般 3名

## 6, プログラム内容

	13		14		15		16		17		18		19		20		21		22	
1 日 目	受付 12:30～ 開会式 13:00～	開 会 式	仲 良 し タ イ ム	手 作 り ラ ン プ 作 り				夕 食	誘 惑 の ネ イ パ ル 森 ! サ ン タ ク ロ ー ス を 探 せ !		入 浴 ・ 自 由 時 間		就 寝 準 備	就 寝						
2 日 目	6		7		8		9		10		11		12		13		14			
	起 床	洗 顔 掃 除	朝 食	荷 物 移 動	部 屋 点 検	ケ ー キ 作 り				ア ン ケ ー ト	閉 会 式	閉 会 式 12:30～ 解 散 12:40								

## 7, 活動の様子

一足早いクリスマスを楽しむ事業として実施した。今回は近隣市町から64名が参加した。この事業は、ネイパル森に宿泊し、野外活動や創作活動を通じて異年齢の交流を図ることがねらい。

開会式では、阿部所長から「今回は、みんなで楽しめる活動をたくさん用意しているので、ネイパルでの1泊2日を大いに楽しんでほしい」と挨拶。その後は、「なかよしタイム」。全員で軽く体を動かしながら、緊張をほぐしていった。全員で「じゃんけん」をしたり、班内で自己紹介をしたりしながら、友だちとの距離を縮めていた。最後に、「探してこよう」のミッションのもと、外の木の葉を班毎に探して歩いた。続いて、「手作りランプづくり」を行った。組み立てるパーツ毎に説明をうけながら、一人ひとり思い思いのランプを作っていた。中には、上級生が下級生の作業を手伝う場面も見られた。カッターを使う場面では、どの参加者も慎重に作業を進めていた。最後には、全員がランプをつくり上げることができた。夕食後は、「誘惑のネイパル森～サンタクロースを探せ～」を行った。トランプを5セット使用し、施設内「大じじぬきゲーム」を参加者全員で行った。「じじ」をサンタクロースに見立てて、班毎に渡されたカードで、どれが「じじ」かをあらかじめ予想して出発。班の中で役割を分担し、一緒になって館内を巡って歩いた。じじ抜き



で盛り上がった後は、キャンドルの集いを行った。点されたキャンドルの下、今日一日を静かに振り返った。

2日目は、「ケーキ作り」をおこなった。地元の洋菓子工房から天野洋介氏を迎えて、ケーキ作りを行った。ケーキが作られていく行程を、一つ一つどの参加者も真剣に見ていた。段階をおって、綺麗にでき上がっていくケーキにどの参加者も目を見張っていた。次に、グループ毎にケーキ作りを行った。慣れない手つきながらも、どの参加者も真剣に作っていた。最後に、ケーキを分けて試食。「おいしい」とどの参加者も顔をほころばせていた。

この二日間を通して、参加者からは「同じ学校や学年ではない友達と仲良くなれたので、良かったです。色々なランプ作りやサンタ探し、ケーキ作りなどで一緒に楽しむことができました。」「とても楽しい二日間でした。」「新しい友達と楽しむのは、楽しさが2倍になります。またこういう機会があったら参加して良い思い出をたくさん作りたいです。」などといった感想があった。

## 9、参加者の声

(以下アンケートより抜粋)

- ・「ネイパルに泊まろう」でみんなで遊んだりして楽しかった。
- ・同じ学校や学年ではない友だちと仲良くなれたのでよかった。
- ・最初はドキドキしていたけど、自由時間ぐらいから気持ちが軽くなった。
- ・友だちに誘われてきたのにその友だちは来ていないけど楽しかった。
- ・とても楽しかったのでまた来たい。
- ・誘惑のネイパル森で、みんなで役割を決めてとても盛り上がったので楽しかった。
- ・学校や学年はみんな違うけど、だからこそ「学校にどんな人がいるのか」などの話でとても盛り上がった。
- ・ケーキ作りでみんなと協力したので楽しかった。



## 10、事業の分析と考察

今回の事業の主旨は「ネイパルに宿泊し、野外活動や創作活動など、体験活動をとおり、異年齢の交流を図る。」であった。そのため、班構成は男女別の縦割り班とし、仲間と寝食を共にしながら異年齢の交流を図った。アンケートからも、「学校や学年は違うが、だからこそ盛り上がった」という声が上がっている。また、事業の中で友だちができたかどうかについて聞いたところ60%を超える参加者が達成できたと回答していた。知らない仲間との活動の中で、時間を追うごとに協力性や自主性が見られるようになったと感じている。

本事業は大変人気のある事業であり、2回開催となり、どちらも満員となった。そのため、より多くの参加者へ体験活動や新しい友だちをつくる機会を提供することができていると考える。

## 11、成果と課題

○成果

- ・異年齢交流を図るために、生活と学習のグループを一緒にしたところ、アンケートからもねらいが達成されていることがわかった。
- ・経験豊富なボランティアが確保できたことで、参加者を観察しながら盛り上げたことにより、グループが活性化され、安心して野外活動や体験活動に取り組ませることができた。

▼課題

- ・例年継続している事業ですぐに満員になる事業である。参加者の中には、リピーターが多く、野外活動や創作活動などの体験活動の開発が必要であると感じている。

